

憩いのふるさとづくり (平成14年度認定)



奥区は、沖縄本島の最北端の集落や、昔から日本一早い茶の出荷で知られていたが、過疎化・高齢化が進むことで、集落人口の減少し、集落内の活動が停滞気味であった。平成2年から、地域興しを目的に、「奥やんばるこいのぼりまつり」を開催し、地域の人々による手作りの祭りが行われている。

奥区の特徴として、昔ながらのユイマールの精神が現在でも残っており、農作業や地域の行事では、老若男女が一致団結し、それぞれの役割を分担し地域の活性化に取り組んでいる。

また、地域の産物である茶、スモモ、シークワサーを使った「三色もち」を開発し、地域のイベントや村内のイベント等で販売を行い、集落をアピールしている。

さらに、平成13年度には交流施設（交流館・宿泊棟）が完成し、管理運営を区民で行っており、今後、都市と集落との交流拠点としてさらなる地域の活性化が期待される。

